



# IFAC 中小事務所委員会 (SMPC) Monica Foerster委員長に訊く IFAC・SMPCの活動紹介



国際会計士連盟 (IFAC) ・ Head of  
SME/SMP and Research

**Christopher  
Arnold**

国際会計士連盟 (IFAC) ・  
中小事務所委員会 (SMPC) メンバー

ひぐち なおふみ  
**樋口 尚文**

国際会計士連盟 (IFAC) ・  
中小事務所委員会 (SMPC) 委員長

**Monica  
Foerster**

日本公認会計士協会 (JICPA)  
中小事務所支援担当常務理事

あらい たつや  
**新井 達哉**

日本公認会計士協会 (JICPA)  
中小事務所支援担当副会長

やなぎさわ ぎいち  
**柳澤 義一**

本誌では、2019年2月25日と26日に、国際会計士連盟 (IFAC) ・中小事務所委員会 (SMPC) の会議が東京で開催された機会をとらえ、SMPCの委員長であるMonica Foerster氏及びIFACのスタッフでHead of SME/SMP and ResearchであるChristopher Arnold氏と、日本公認会計士協会 (JICPA) の中小事務所支援担当常務理事である新井達哉氏及びSMPCのメンバーである樋口尚文研究員との間で、座談会を実施した。

座談会には、中小事務所支援担当の柳澤義一副会長も同席し、次頁の総括的なコメントも寄せている。ご一読いただきたい。

## 柳澤副会長コメント

今回、IFAC・SMPCの会議が東京で2日間開催され、3日目にはJICPAとしてのイベントも開催し、日本の中堅・中小監査法人のメンバーとSMPCのメンバーとの活発な交流ができたことは本当に有意義なことでした。

IFACというと監査基準や倫理規程でなにかと厳しい要求が一方向的に飛んでくるというイメージをお持ちの方もいるのではないかと思います。今回、小規模な(複雑ではない)事業体の監査の問題については突っ込んだ議論もできました。これは、規模の問題でなく、複雑ではないというカテゴリーでの議論であること、そして、高品質の単一の監査基準だけで済む話ではないということは十分承知しているというコメントもあり、話してみれば、課題としてとらえていることは我々と一緒であるということがよくわかりました。

私は陪席の予定でしたので、コメントはしないつもりでいましたが、議論が活発で面白くなってきたので、最後の方では、つつい座談会に口を挟んでしまいました。組織対組織というだけでなく、人と人との交流の中から問題解決の糸口が見つかるのではないかと感じた次第です。

## 1. IFACの活動紹介

### (1) IFACの戦略とIFAC・SMPCの作業計画との関係について

**樋口** まず、IFACの戦略とSMPCの活動がどのようにリンクしているかについて、ご説明いただけますか。

**Foerster** IFACは、対話や議論が必要な国際的なテーマを推進するという独特の活動を行っています。2018年11月に、IFACの2019-2020年の戦略である“Build Trust, Inspire Confidence”がIFAC理事会で承認されました。

その戦略目的の1つに、“Future Ready Accounting Profession”[将来に備えた会計プロフェッション]ということも掲げられており、SMPCの活動の基本的な目標となっています。SMPCは2004年にIFAC内に設置され、中小事務所と中小企業双方の利益を代弁しています。

SMPCは18名のメンバーから構成され、テクニカル・アドバイザーも含めると、世界中から、30人以上が、中小事務所や職業会計士団体(PAO)から参加しています。SMPCは年3回会議を開催しますが、実質的には6つのタスク・フォースを通じて活動しています。

SMPCの活動領域は、主に以下の3つ

です。

#### ① 国際基準設定主体へのインプット

国際的な監査や倫理及び会計基準設定主体に対して、コメントレーターなどの形で適時にインプットを提供しています。

#### ② 中小事務所支援

国際的な基準の適用、業務管理やビジネス・アドバイザー・サービスなどについてのリソースを提供するためのツール及びガイダンスなどを作成しています(次頁図表1)。

さらに、中小事務所や会計プロフェッションに対して、情報提供をするメカニズムとして、IFACのウェブサイト、グローバル・ナレッジ・ゲートウェイ(GKG)<sup>1</sup>という専用ページを2014年に導入しました(次頁図表2)。

#### ③ 認知度向上

中小事務所や中小企業の認知度向上や利害を代弁する活動を行っています。

### (2) 国際基準設定主体へのインプットについて

**樋口** 国際基準設定主体へのインプットですが、SMPCの会議にIAASB(国際監査・保証基準審議会)やIESBA(国際会計士倫理基準審議会)の議長・副議長・ボードメンバーが、直接、説明しに来てくれ、中小事務所の声に耳を傾けてくれる

こと、コメントレーターも適時に作成され、内容も的を射ていることに注目したいと思います。IAASBやIESBAとの信頼関係をどうやって築いてきたかについて教えていただけますか。

**Foerster** 国際基準設定主体との関係は、長い時間をかけて構築してきました。基本的には、適時に世界の中小事務所の実務・情報のインプットを続けて信頼関係を積み上げました。



Monica Foerster氏

例えば、公開草案やディスカッションペーパー(DP)に対して、コメントレーター形で世界の中小事務所の声を基準設定



図表1 SMPCの公表物(一例)

邦訳	公表時期	頁数
中小企業監査における国際監査基準利用ガイド(第4版)	2018年7月	526
レビュー業務ガイド	2013年12月	134
合意された手続(AUP)ガイド	2017年12月	12
正しいサービスの選択-監査、レビュー、調整、AUPの比較	2016年9月	5
調製業務ガイド	2015年9月	64
中小事務所の品質管理/中小企業監査ガイド/ レビュー業務/調整業務の手引き	2015年10月	9
中小事務所のための品質管理ガイド(第3版)	2011年7月	171
中小事務所のための業務管理ガイド(第4版)	2018年5月	471
統合思考を通じて中小企業に価値を提供する	2017年8月	12

IFACのウェブサイトGlobal Knowledge Gatewayに掲載されており、メールアドレスなどを登録すると、誰でも閲覧、利用できる。各国での翻訳も推奨されている。

図表2 Global Knowledge Gateway

<http://www.ifac.org/global-knowledge-gateway>

- ①監査・保証、②事業報告、③倫理、④ガバナンス、⑤業績及び財務管理、⑥業務管理、⑦サステナビリティ、⑧テクノロジーなどが掲載されている。
- 翻訳機能あり。

主体にインプットしています。また、基準設定主体の会議前にコミュニケーションを図っていますし、基準設定主体のCAG(諮問助言グループ)にはSMPCの関係者も含まれています。テクニカルな内容についてのインプットを提供することが重要であり、その中でも、特に、柔軟性やバランスをとることが大事だと考えています。

**Arnold** IAASBとは2008年に、そして、IESBAとは2013年に、リエゾン・プリンシプルという、SMPCがインプットを

提供することに合意しています。世界の中小事務所が国際的な基準の利用者であり、重要な利害関係者の1つといえます。

### (3) 中小事務所支援について

**Foerster** 今、起こっているテクノロジーの急速な変化に、世界中の職業会計士が対応しようとしています。IFACでは、新たな課題や機会に対応するため、PAOとともに活動しています。すなわち、将来の職業会計士の能力やリーダー

シップを推進するために、テクノロジーの開発を行い、新しいビジネスモデル作りを促進しています。

さらに、2018年にIFACは、世界の中小事務所に対してグローバルなアンケート調査を行い、テクノロジー面での課題や業務における可能性について質問しました。

調査結果<sup>ii</sup>によると、今後、1年以内に導入しようと考えている主なテクノロジーとは、事務所内のITのスキルや能力の向上、クラウドの活用、データ分析でクライアントの要求に応える、会計士以外の人材の採用予定などという結果が出ました。

中小事務所の収入の大部分は、伝統的な監査や税務コンプライアンスでしたが、アドバイザー・サービスの分野への進出など多様化がみられてきました。

なお、世界的にみると、アドバイザー・サービスが最も増加すると予想されていますが、日本では監査・保証サービスが最も増加すると予想されています。

**新井** ご説明があったように、日本の中小事務所も、今後、変化に対応しなければならないという認識をしています。データ分析やクラウドの利用など、テクノロジーに関して、印象的には欧米が日本より進んでいるようなイメージを持っています。

IFACとして、情報提供や中小事務所支援をどのように実行しているのかを教えてください。

**Foerster** 新しいテクノロジーの利用については、国によっても、事務所の規模・構想によっても段階が異なると思います。ただ、IFACは、世界にどのようなテクノロジーがあるのかを把握しようと努力しています。そして、PAOとコミュニケーションをとって、利用可能なテクノロジーの範囲、理解度や利用の程度を把握しようとしています。中小事務所は、リソースが限られているので、新たな変化を取り入れ

るというのが難しいという面があると思いますので、リサーチとPAOによる取組みの把握と共有に努めています。

**Arnold** IFACのSMPCは、「中小事務所のための業務管理ガイド」<sup>III</sup>を2018年にアップデートし、テクノロジーの利用という新しいモジュールを加えています。

具体的には、テクノロジーの戦略立案、ハードウェアとソフトウェアの選定やリスク管理、サイバーセキュリティへの対処といったことを扱っています。

中小事務所がテクノロジーへの対応という課題に直面しているため、ある国のPAOと協力して、このセクションを追加しました。GKGにも、テクノロジーのセクションがあります。

Christopher Arnold氏



**樋口** SMPCの会議に2017年から参加していますが、テクノロジーに関していうと、アメリカ、ドイツ、カナダ、マルタ、インド、イギリス(2団体)、香港、南アフリカ、及びマレーシアなどのPAOの取組み状況を相互に紹介合っています。これらを日本の中小監査法人・個人事務所の参考になるようにし、逆に、日本の先進的な取組みをSMPCやPAOとも共有することも重要であると考えています。

**新井** JICPAの取組みについて説明しますと、IT委員会と中小事務所等施策調査会が協業し、日本の中小事務所に対して、ハードウェア・ソフトウェアを含めたリソースの利用可能性についての情報提供を行うなどのサポートする場を設けようと、動き出そうとしているところです。SMPCから情報をいただければと思いますが、言葉の壁があります。言語の問題は、別途、考えるとして、是非お互いに情報交換を今後もしたいところです。

**Foerster** SMPCには、樋口さんもメンバーとして積極的に参加しています。中小事務所にとって共通の課題であるテクノロジーについては、IFAC単独ではなく、PAOに呼びかけ、取組みやベスト・プラクティスを共有する形で協力し合う関係を築いています。

言語の問題については、今回の会議のテーマの1つでしたので、もちろん認識しています。他の地域のメンバーも同じ問題に直面しています。

**樋口** IFACの中小事務所に対する様々な支援に関連するという、有用な論文等がGKGに掲載されています。しかし、残念ながら英語であり、翻訳のリソースが限られ、紹介しきれないのが現状です。ただし、将来的には、機械翻訳などのテクノロジーが克服してくれるかなと楽観的にも思っています。

#### (4) 認知度向上について

**Foerster** 世界の中小事務所・中小企業やSMPCを代表して、IFACの公共政策・規制アドバイザー・グループに出席し、意見を述べています。また、明日(2月27日)、JICPAでも開催しますが、世界の各地域で定期的に中小事務所向けのフォーラムを開催するほか、SMPCのメンバーが各国でIFACの活動のフィードバックを行っています<sup>IV</sup>。

## 2. JICPAの中小事務所等施策調査会の活動について

**新井** JICPAには様々な委員会活動があり、私が担当しているのが、中小事務所等施策調査会です。日本には監査法人が約200強あり、個人事務所も含め400強の事務所が中小監査事務所連絡協議会に参加しています。上場会社約3,700社のうち、約1,000社が中小規模の監査法人の監査を受けています。

テクノロジーにしても、グローバルなファームからツールを提供されているような、比較的、規模が大きな監査法人もありますが、大多数がそうではありませんので、JICPAの支援が必要になります。

先ほどのグローバルな調査結果においても、今後、日本では、監査・保証業務の伸びる余地が高いことを示していただきましたが、そのとおりです。非営利の分野、例えば、社会福祉法人、農業協同組合、漁業協同組合、医療法人や地方自治体等に対する法定監査・保証業務が拡大する傾向があります。

新井 達哉氏



監査・保証業務についても、最新の規制動向の紹介、監査ツールの更新情報を



含めた研修を行うべく、日本全国の地域会を公認会計士・監査審査会の会長や検査官と訪問し、研修会を開催しています。

**Foerster** JICPAの中小事務所支援がどうなっているのかを理解する上で大変よかったと思います。特に、どういった支援に力を入れているのか、中小事務所の規模にかかわらず活動内容もうかがいました。様々な特徴を持った中小事務所があると思いますが、世界でも同じような違いがあると思います。JICPAの中小事務所支援戦略についても、世界でも通じるものと感じました。

また、日本独自の今後の課題や変化を考慮に入れて活動をされていることを理解できました。

### 3. IFAC・SMPCとJICPAの中小事務所等施策調査会の協力

**樋口** IFAC・SMPCとJICPAの中小

事務所等施策調査会との間の協力という、なかなか難しい課題です。



例えば、IAASBが取り組むAudits of Less Complex Entities (複雑ではない企業の監査：ALCE)は、今後、世界の中小事務所でも日本でも非常に重要なテーマになってくると思います。はっきりとし

た見通しを、現在、示すことは難しいと思うのですが、コメントをいただけますか。

**Arnold** IAASBは、2019年4月にこのDP<sup>▼</sup>を出す予定で、今、作業を進めています。ALCEに関しては、様々な可能なアクションが検討されています。

IFACは、高品質の監査をサポート・奨励するという立場をとっています。そして、一組の高品質・国際的な監査基準で全ての事業体の監査が実施できるように、基準開発を行うというミッションがあります。ALCEも、中小企業の監査がきっかけですが、規模の大小が議論の出発点ではありません。

**新井** この点については日本でも非常に重要な課題です。全ての事業体に、同じレベルで監査手続を行って、監査意見を表明することは実務的にもなかなか難しいと感じていますが、具体策はない状態です。2019年4月にDPが出るというお話をいただけたので、内容を検討するのが楽しみです。

**柳澤** ALCEに関連して、一組の高品質な監査基準についてのIAASBの方針はきちんと理解しています。ただし、それだけでは監査報酬が高くなってしまって、安い報酬水準で代替的な簡易な監査を実施しようと、公認会計士ではない専門職が市場に参入しようとする動向もありまして、我々としては非常に悩んでいるところです。

柳澤 義一氏



**Foerster** IAASBでも、昨今の基準の長文化や複雑性が中小企業に適合しないといった議論がもともとあり、DPを出そうということになりました。ALCEでは、

ISA (国際監査基準) とおりに監査をするのが色々な要素から難しい課題を理解し、中小企業にとっての監査報酬の負担も認識した上で議論が始まっています。

どの国でも同じような課題はあります。このDPが出たら、そういう状況も説明して日本からもコメントしたらよいと思います。

**柳澤** ALCEには、詳細な手続を重視するのではなく、職業会計士の専門的判断を重視する、より原則主義の基準にしてほしいと希望しています。

#### 4. 最後に

**樋口** JICPAの中小事務所等施策調査会とSMPCの活動の相互作用がないと意味がないので、今後も積極的に関与していきたいと思います。

**新井** SMPCには日本から継続的に人材を送りたいと考えていますので、よい関係の維持をお願いしたいところです。

**Foerster** SMPCとJICPAとの関係はとてもよいと思っていますし、メンバーを通して、グローバルな課題への対処をコミットされることは大変よいことです。

また、時間やリソースを色々と割いていただいています。日本の方がSMPCに一貫して参加し、この関係を維持するこ

とが必要です。

**Arnold** 今回、IFAC・SMPCの会議をJICPAにおいて開催させていただき、ありがとうございます。

**新井** ありがとうございました。日本で有用な会議を開催していただいたことについて、誇りに思いますし、お礼申し上げます。

〈注〉

- i グローバルナレッジゲートウェイのウェブサイト  
<https://www.ifac.org/global-knowledge-gateway>
- ii グローバルSMP調査についての調査結果は、2018年10月に公表されている。  
<https://www.ifac.org/publications-resources/new-global-smp-survey-reveals-keys-growth-small-accounting-firms> (2019年3月10日閲覧)
- iii IFAC "Guide to Practice Management for Small- and Medium-Sized Practices, fourth edition", May 2018.
- iv 2019年2月27日に公認会計士会館で中小事務所フォーラムが開催された。詳細については、本誌2019年7月号に掲載予定である。
- v IAASB Discussion Paper "Audits of Less Complex Entities: Exploring Possible Options to Address the Challenges" April, 2019 (本稿校了時点 (2019年4月1日) では公表されていない。)